

## 第9回日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）中国支部学術集会 報告：スタッフとして参加して

新田多智子<sup>1,2)</sup>，大島 千晶<sup>1,2)</sup>，本田 正宏<sup>1,3)</sup>，高木 賢一<sup>1,3)</sup>，土江 知代<sup>1,4)</sup>，  
景山 真也<sup>1,5)</sup>，勝部 琢治<sup>1,6)</sup>，山本 啓子<sup>1,4)</sup>，大谷 順<sup>1,7)</sup>

**要 旨：**第9回日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）中国支部学術集会学会（2016年12月松江市）を振り返る。当日までの事前準備や会場設営は、学会から委託された専門業者や共催メーカーが担当し、当院からスタッフとして参加した8名は、一般演題のセッション分けや、他施設への参加呼びかけなどが役目であった。当日は、スタッフが、受付、会場係、司会など慣れない仕事を分担した。会場の駐車場が閉鎖中であることが直前に発覚し、車での来場者を誘導する役割も課せられた。会場の様子も見えず、特別講演も共同演者の発表も聴けなかったが、多くの方と共に学会が開催できたことに安堵し、喜びを味わえた一日であった。

**キーワード：**学会担当・運営，栄養サポートチーム（NST），日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）中国支部

（雲南市立病院医学雑誌 2019; 15(1)）

当院からスタッフとして8名参加した2016年12月3日（土）鳥根県松江市松江テルサで開催された第9回日本静脈経腸栄養学会（以下、JSPEN）中国支部学術集会を振り返ってみます（図1）。

当日までは、事前準備や会場設営は、学会から委託された専門業者や共催メーカーがすすめてくれました。私たちの役目は、一般演題のセッション分けや、他施設への学会参加呼びかけなどでした。

学会前夜は、「おもてなし」の気持ちをこめて、普段学会や研修会で指導頂いている他県の先生方を招いての懇親会を設けました。皆さんが楽しんでくれるだろうか？と緊張、心配の懇親会でした。思い起こせば、数名の先生方がなかなか到着せず、まさか事故にでも？と心配していたのですが、懇親会会場の目印と

して通知していたホテルが、本館と別館の2つがあり（しかも駅北と駅南）その違いで、もう一方のホテルめがけて会場を探し回っていたとのことでした。何とか辿り着け、本館、別館違いが判明しました。不手際がありましたが笑い話にしてもらい、助けられた夜でした。

当日は、受付、会場係、駐車場案内係、司会など、慣れない仕事を分担して、参加者の来場を待ちました。

県内外からの交通アクセスを考えて、駅に近くて駐車場がある会場を選んだはずだったのですが、開催直前に、会場である松江テルサの駐車場が整備のため全く使えない、という事態が発生しました。会場を予約した時点では何も知らされてなく、学術集会会長も「それが分かっていたら会場を考えたのに」と悔やん

<sup>1)</sup> 雲南市立病院栄養サポートチーム（NST），<sup>2)</sup> 雲南市立病院栄養管理科，<sup>3)</sup> 雲南市立病院薬剤科，<sup>4)</sup> 雲南市立病院検査技術科，<sup>5)</sup> 雲南市立病院看護科，<sup>6)</sup> 雲南市立病院事務部総務課，<sup>7)</sup> 雲南市立病院外科  
著者連絡先：雲南市立病院栄養管理科 〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕

TEL: 0854-47-7500/FAX: 0854-47-7501

E-mail: un-eiyou@hotaru.yoitoko.jp

（受付日：2018年10月29日，受理日：2019年3月1日，印刷日：2023年1月31日）



図1 学術集会当日運営スタッフ (会場で)

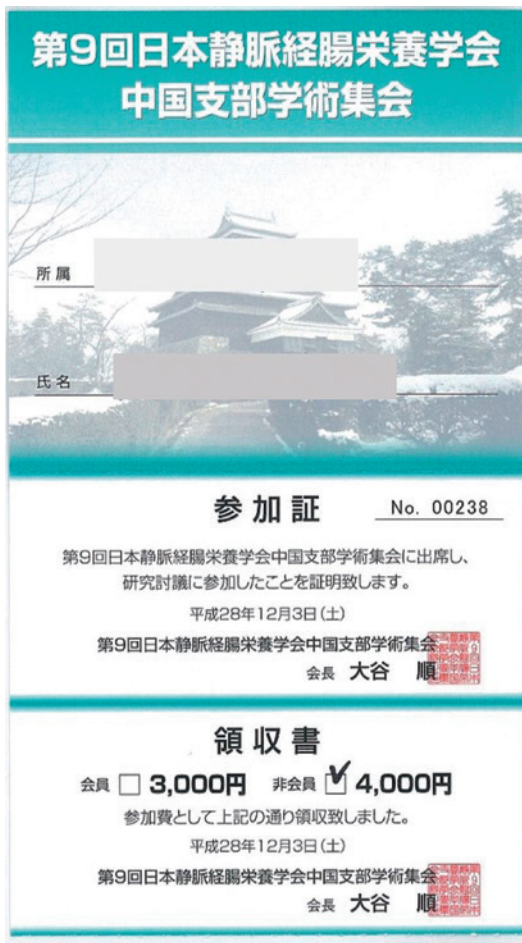


図2 学術集会参加証

でいましたがあとのまつり。車で来場する参加者を、近くの一般駐車場へ誘導する、という役割も課せられることになりました。

JSPEN中国支部学術集会は、毎年開催時期が冬であり、山陰では積雪や凍結の心配がある時期。まだ12月とはいえ、ぎりぎりまで天候の心配もありました。また、別の研修会と日程が重なっていたこともあり、どれくらいの方に参加していただけるか・・・眠れないほど不安でした。なぜなら、開催収支の収入は学会参加者の参加費に頼る部分が大きかったからです。参加者が少なければ大赤字です。その赤字は、誰が負担するのだろうか？もしかして、私たち？と心配していました。当日、一人、また一人、と顔見知りの参加者が会場ホールに見えるたびに、心の中でガッツポーズ、感謝しながら受付をしたのを覚えています(図2)。ちなみに、この支部学術集会の会計は基本的に学会本部の会計に繰り入れられていました。

私たちスタッフは、学会が行われている会場がどのような様子なのか、総合司会の当院検査科山本技師の勇姿も想像するのみで、「リヤカーマン 地球を歩く」の特別講演も、共同演者の発表を聴くことすらできませんでしたが、ともかく学会が開催できたことに安堵した一日でした。

翌年の鳥取での学術集会からは開催時期が夏へと移行し、天候の心配はなくなりましたが、冬の山陰での学会開催は心労が大きいと改めて思いました。

開催場所が中国5県を巡るこの学会は、その後、2018年7月の平成30年西日本豪雨災害を乗り越えての広島県呉市での開催もありました。スタッフを経験した後の私たちに、担当者のご苦勞はいかばかりかと想像、感謝しながら参加しました。

この小さな地方学会ではありましたが、学術集会会長、共催団体、講師・演者・座長、参加者、多くの方と共に、無事に開催できた喜びを味わうことができ

ました。ドタバタもあった学会開催でしたが、参加者からは帰り際に労いの言葉もかけていただき、思い出と良い経験になったことは確かです。

当院は、現在、学術活動も活発化しており、今後も同様な学術集会開催の機会があると思われます。機会があれば、是非この経験を生かし、スタッフとして参加したいと思います。

## An experience of participation in on-site operation of the 9th Annual Congress of the Chugoku Chapter of the Japanese Society for Parenteral and Enteral Nutrition (JSPEN)

Tachiko Nitta<sup>1,2)</sup>, Chiaki Oshima<sup>1,2)</sup>, Masahiro Honda<sup>1,3)</sup>,  
Kenichi Takaki<sup>1,3)</sup>, Chiyo Tsuchie<sup>1,4)</sup>, Shinya Kageyama<sup>1,5)</sup>,  
Takuji Katsube<sup>1,6)</sup>, Keiko Yamamoto<sup>1,4)</sup>, Jun Otani<sup>1,7)</sup>

**Abstract:** We report an experience of participation in on-site operation as staff of the 9th Annual Congress of the Chugoku Chapter of JSPEN, Dec. 2016, in Matsue. On the day of the congress, congress officers and sponsors were responsible for preparing and setting up the schedule, the programme and the congress venue, while the staff members shared the responsibilities of dividing and sorting all abstracts that were submitted to the programme and inviting the persons interested in presenting. On-site, staff members also served as registration clerks, guides for the participants and programme directors, roles to which we were unaccustomed. Although we could not see the meeting room, attend the special speech or hear the presentations of our colleagues, we were all satisfied with successful management of being in charge of the congress.

**Key words:** Management in charge of congress; nutrition support team; Japanese Society for Parenteral and Enteral Nutrition (JSPEN)

---

<sup>1)</sup> Nutrition support team, Unnan City Hospital, <sup>2)</sup> Department of clinical dietary, Unnan City Hospital, <sup>3)</sup> Department of pharmacy, Unnan City Hospital, <sup>4)</sup> Department of Clinical laboratory, Unnan City Hospital, <sup>5)</sup> Department of nursing care, Unnan City Hospital, <sup>6)</sup> Division of general affairs, ministry of affairs, Unnan City Hospital, <sup>7)</sup> Department of surgery, Unnan City Hospital,

First author: Tachiko Nitta, Department of clinical dietary, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: un-eiyou@hotaru.yoitoko.jp